

ヲ出シ、一句ヲ附ル、一句ノ終リヲ、又題ニシテツケル、今ノ段々付ナリ。

字モジリ 題丸カブリ スキ
好
鎌 カマ

又土民ヲ題ニシテ、ウケテ下五字ヲ別ニ云廻ス、

ムスメノ子
紙
髪
梳
桑瓜
眞 クハ
クハ
桑瓜
眞 モツ土民

前ニ同ジ

本モジリ 題年布、臼アリ 杵アリ 鬼モアリ 題鬼モアリ

細長イ耳ヲアラレニキル

此外シリ五文字等アレドモ略ス 文字理ト書テ可ナリ

〔倭訓栞中編八〕ことぐさ。眞名伊勢物語に言種と見ゆ、人の物いふ種クサはひ也、今人いひぐさともいへり、言の葉ぐさといふも義同じ、

〔類聚名物考言語七〕ことぐさ 口實

口癖といふに同じ意なり、言種口實の事なり、手ぐさとも云ふ、

〔源氏物語一桐壺〕朝夕のことぐさにはねをならべ、えだをかはさむと、ちぎらせ給しに、○下

〔類聚名物考言語五〕かたりぐさ 話種 話柄 談資

今俗にいなしのたねといふに同じ、

〔倭訓栞中編八〕ことえり。俗にいふ言葉撰み也、らみ反り、

〔先哲叢談續編七〕松崎觀海

觀海童亂之時、近鄰失火、怖曰逃亡、白圭曰、吾幼亦言逃、有一老人謂丈夫語當曰避火、不當曰逃火、吾改容謝之、爾後不曰逃亡、富永氏亦曰、男兒出一話一言、不當如婦女子、

〔枕草子〕ことくなるもの